

加用し、雑草および土壌がぬれるまで十分に散布する。40%製品は、倍量を使用する。

④ アメトリン（ゲザボックス）

有効成分は、2-メチルチオ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ-8-トリアジンである。本剤は、非ホルモン型、吸収移行型接触剤である。従来の接触剤と異なる点は、土壌処理効果による抑草期間が長く、しかも処理層が安定している。散布後の降雨による効果の低下も少ない。しかし、多年生雑草に対しては効果は期待できない。残効期間は40～60日程度で、土壌中での移動性は砂土を除き小さい。

使用法；ゲザボックス乳剤（25%）は、10a当たり本剤1～1.5ℓを水300ℓでうすめ、加圧噴霧器で雑草の根元までぬれるように、十分に散布する。本剤は、気温の低い春秋では、効果の出現がおくれる。

⑤ その他、広葉雑草に効果のある薬剤として、TCBA（トリバック）がある。混合剤としては、DCMU・プロマシル（デーエクス）などがあるが、これらの混合剤は、イネ科雑草にも効果がある。

薬剤使用上の一般的注意事項

① 使用する薬剤は一般に強力な除草剤であり、使用量も多いので、他作物に飛散しないよう、風の強い日の散布などは中止する。農地、養魚地、果樹、桑園、庭木、牧草地に近接したところ、また人家に近い所の散布は十分に注意すること。

② 薬剤処理後の降雨は、効力を減ずることが多いので、降雨の予想される日は処理をさける。

③ 薬剤散布に使用した噴霧器、如露などは、使用後は十分に水洗しておくこと。乳剤などは水洗しても落ちないときは、洗剤を使用する。

④ 薬剤の取扱いの注意、薬剤の保管、使い残しものは密封して、乾燥した安全な場所に貯蔵する。

⑤ 薬剤散布するときは、身体に付着しないように注意し、作業服、ゴム手袋、マスク（ガーゼ）などを着用すると安全である。

⑥ その他、薬剤使用にあたっては必ず使用書をよく理解し、とくに注意事項を厳守し、薬剤による公害の起こらないように留意することが大切である。

試験用噴霧器の一考案

農林省林業試験場赤沼試験地 石井邦作

薬液散布に能率的で簡単な装置を考案したので、ご紹介する。

とかく除草剤の散布試験は、濃度の違い、数種の薬剤を同時に試験することもある。プロット数が多くなることが多い。このため、小さい噴霧器は時間がかかり、容量の大きいものは洗浄の手間が大変であり、散布量の少ない場

合は使用できない制限がある。

つぎに、所定量が満足に散布できたかどうか問題である。私の調査では、水平に置いた場合でも、写真1に示すような肩掛式の半自動（容量9.6ℓ）のもので約50cc、全自動（5ℓ）で約55cc、柄杓式で約15ccはどうしても残存する。これを、実際に肩にかけて使用し

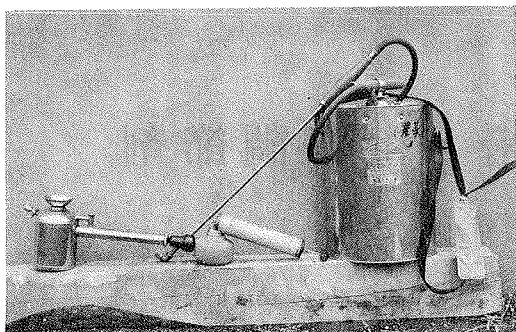


写真 1

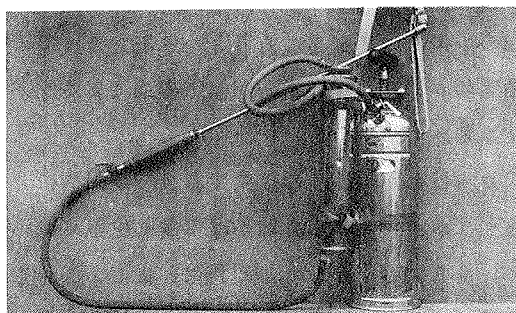


写真 2

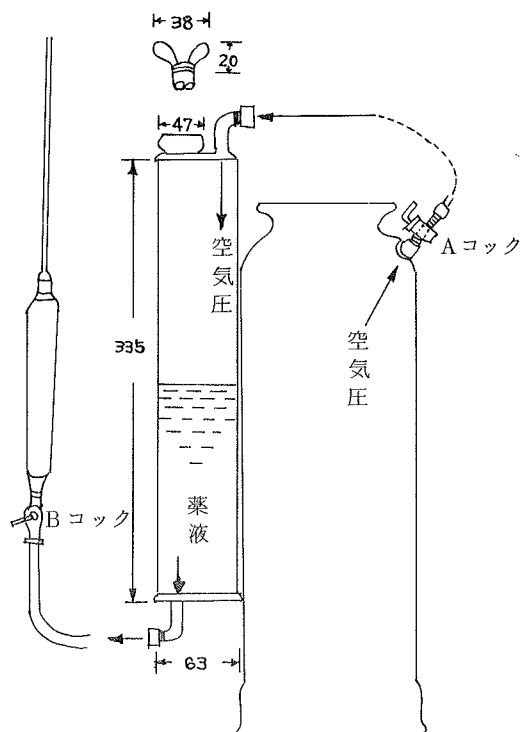
た場合は、なかなか水平に保持できないため、 100 cc 程度の残存量になった経験がある。

そこで、液を完全に噴出できる簡単な方法はないかと考えた結果、写真2のような補助タンク（容量 1 l ）をとりつけた。使用方法は、噴霧器の空気圧を利用して、補助タンクの薬液を完全に排出しようとするものである。（図参照）

まず、始めにBコックをしめて、補助タンクに薬液を入れ、Aコックを開く。次に噴霧器のポンプを $40\sim50$ 回程度つき、空気圧を高めてからBコックを開いて、薬液を散布しますがこの場合注意することは、空気圧の程度に問題があるので、実際に散布する前に水を使用して練習してから行なう必要がある。現在、これによって大変能率的に作業を進めている。

主な利点をあげると、

- (1) 所定の薬量は完全に散布できるので、残存による散布ムラが防止できる。



単位 mm

- (2) メインタンクのコックを利用することによって、プロット面積 $2\sim3\text{ m}^2$ 、薬量 $250\text{ cc}/\text{m}^2$ 程度ならば1回の加圧で $2\sim3$ 回連続散布できる。
- (3) ポットに散布する場合のように、非常に薬量が少ないときは、手押式ないし実験室用の小型のものが必要があるが、低圧にして使用すれば $10\sim20\text{ cc}$ でも簡単に散布でき、散布時間も早い。
- (4) 洗浄が非常に簡単で、作業能率がきわめてよい。

なお、参考までに補助タンクの加工費は、昭和40年当時 $3,200$ 円かかっている。

この考案について、種々助言をいただいた、農林省林業試験場加藤造林部長、赤沼試験地の関係者に対し、深甚の謝意を表する。